香川県
農業・農村基本計画

令和３～７年度

農業の持続的な発展と活力あふれる農村づくりを目指して

概 要 版

かがやくけん、かがわけん。
香川県

香川県農業・農村基本計画

趣　旨

これまで農業所得の向上や農村と集落の再生・活性化等に取り組んできた方向性を引き継ぎながら、農業・農村を取り巻く情勢の変化や県民意識・ニーズ、有識者、県議会をはじめとする県民の皆様からの意見等を踏まえ、これからの本県農業・農村の目指す姿と施策の方向性を示した計画を策定するものです。

性　格

本県農政の基本指針として、県の総合計画である「『みんなでつくるせとうち田園都市・香川』実現計画」等との整合性を図りつつ、本県農業・農村の目指す将来像や基本的方向、施策の展開方向を明らかにしたものです。

計画期間

期間は令和３年度からの５年間とし、令和７年度を目標年度とします。

本県農業・農村の現状

- 農業従事者の減少・高齢化が進む一方、新規就農者は一定数確保しているものの、その伸びは鈍化しており、認定農業者数は頭打ち。
- 作付延べ面積は減少しているものの、農業産出額は一定額を堅持。
- １経営体あたりの経営耕地面積は全国平均の１/３にとどまり、農地集積率、ほ場整備率も全国低位。
- 直近10年間で経営規模５～10haの経営体は74%増、10ha以上の経営体は83%増と、規模拡大に意欲的な経営体は多い。
- ため池の防災・減災対策は着実に進展。
- 多面的機能の維持・発揮に取り組む活動組織数は若干の減少傾向。

取り巻く環境の変化

- 人口減少・少子高齢社会の到来
- グローバル化の進展
- 田園回帰志向の高まり
- ウィズコロナ時代への対応
- SDGsの推進
- デジタル技術・先端技術の進展
- 脱炭素化の推進
- 頻発化・激甚化する自然災害等のリスクへの備え

全国における本県農業の位置

（単位：億円）

農業産出額（計）		
1	北海道	12,558
2	鹿児島	4,890
3	茨城	4,302
	⋮	
35	香川	803

米・麦類		
1	北海道	1,581
2	新潟	1,501
3	秋田	1,126
	⋮	
38	香川	124

野菜（いも類含む）		
1	北海道	2,493
2	茨城	1,883
3	千葉	1,512
	⋮	
30	香川	250

畜産		
1	北海道	7,350
2	鹿児島	3,227
3	宮崎	2,209
	⋮	
28	香川	320

（　）内は全国シェア

１位

金時にんじん（R元年度）　2,006t（97%）

オリーブ（H30年）　420t（91%）

マーガレット（R元年）　1,410千本（83%）

２位

はだか麦（R元年）　3,320t（16%）

３位

ブロッコリー（R元年）　15,400t（9%）

にんにく（R元年）　742t（4%）

香川県農業・農村基本計画

		現　状	目　標
1	新規就農者数（累計）	717人 （H28～R2年度）	750人 （R3～R7年度）
2	新たな認定農業者数（累計）	484経営体 （H27～R元年度）	500経営体 （R3～R7年度）
3	認定農業者である農業法人数	343法人 （R元年度）	400法人 （R7年度）
4	農業産出額	803億円 （R元年）	818億円 （R7年）
5	小麦「さぬきの夢」の作付面積	2,100ha （R2年産）	2,300ha （R7年産）
6	県オリジナル品種の作付面積 （野菜、果樹、花き、オリーブ）	246ha （R元年度）	300ha （R7年度）
7	ブランド農産物の生産量	37,960t （H27～R元年度の平均）	41,810t （R7年度）
8	オリーブ生産量	490t （R2年産）	600t （R7年産）
9	盆栽輸出数量	12千本 （R2年度）	12千本 （R7年度）
10	和牛繁殖雌牛頭数	1,720頭 （R2年度）	1,760頭 （R7年度）
11	国際水準GAP認証取得数	12件 （R2年）	22件 （R7年）
12	精密な土壌測定診断件数（累計）	5,240検体 （H28～R2年度）	6,500検体 （R3～R7年度）
13	収入保険加入者数	583経営体 （R2年）	1,500経営体 （R7年）
14	小麦「さぬきの夢」取扱店舗数	85店舗 （R2年度）	210店舗 （R7年度）
15	かがわ地産地消協力店登録店舗数	351店舗 （R2年度）	410店舗 （R7年度）
16	新たに６次産業化や農商工連携に 取り組む農業経営体数	118経営体 （R2年度）	168経営体 （R7年度）
17	農地中間管理事業による貸付面積	2,823ha （R2年度）	4,300ha （R7年度）
18	ほ場整備面積	7,678ha （R2年度）	7,803ha （R7年度）
19	基幹水路保全対策延長	138km （R2年度）	158km （R7年度）
20	スマート農業技術導入経営体数	64経営体 （R2年度）	150経営体 （R7年度）
21	防災重点農業用ため池の整備箇所数 （全面改修）	3,541箇所 （R2年度）	3,651箇所 （R7年度）
22	中小規模ため池の耐震化整備箇所数	12箇所 （R2年度）	22箇所 （R7年度）
23	飼養衛生管理指導等計画に定める 重点的指導事項の遵守率	85.7% （R2年度）	100% （R7年度）
24	多面的機能の維持・発揮活動を行う 農用地面積	14,280ha （R2年度）	15,000ha （R7年度）
25	グリーン・ツーリズム交流施設の 体験・宿泊者数	84,300人 （R2年度）	コロナ影響前の 実績値まで回復
26	野生鳥獣による農作物被害金額（累計）	724百万円 （H27～R元年度）	500百万円 （R3～R7年度）

基本目標

農業の持続的な発展と活力あふれる農村づくり

新たな担い手の確保・育成とともに、安全・安心で多様な消費者ニーズを的確に捉えた農産物の安定供給やターゲットを明確にした戦略的な需要拡大に取り組み、儲かる農業の実践による持続的な発展を目指します。また、生産性の向上や快適で安心して暮らせるよう必要な基盤整備を進め、都市と農村の交流の促進など、暮らしやすく、訪れた人も喜びを感じることができる活力あふれる農村づくりを進めます。

施策体系

展開方向Ⅰ 担い手の確保・育成	1　新規就農者等の確保	①多様な人材の呼び込み ②相談から就農までのサポート体制の強化 ③雇用人材の確保
	2　担い手の育成・支援	①新規就農者の定着支援 ②生産・経営力の向上支援 ③次世代リーダーの育成
	3　農業経営力の向上	①経営の発展と継承の推進 ②経営マネジメント能力の向上 ③優れた経営体の育成・連携

展開方向Ⅱ 農産物の安定供給	1　農産物の生産振興	（1）米麦の安定生産と高品質化	①米麦の安定生産と省力化の推進 ②需要にこたえる高品質化の推進
		（2）園芸作物の安定生産と高品質化	①野菜　②果樹　③花き ④オリーブ　⑤盆栽　⑥茶
		（3）畜産物の安定生産と高品質化	①畜産物　②オリーブ畜産物
	2　新品種・新技術の開発		①新品種・新技術の開発 ②知的財産の活用
	3　食の安全・安心の確保		①生産工程管理の取組み ②食品衛生管理の取組み
	4　環境に配慮した農業の推進		①脱炭素化の推進 ②環境保全型農業の推進
	5　セーフティネット対策の推進		①農業保険等の普及推進 ②農作業安全の推進 ③気象災害等のリスク対策

基本方針

儲かる農業の推進｜豊かな食の提供｜魅力ある農村の実現

基本目標である「農業の持続的な発展と活力あふれる農村づくり」に向けた歩みを確かなものとするため、意欲ある担い手の確保・育成と生産性の向上による「儲かる農業」の実現、安全・安心な農産物の安定供給と県民と農業・農村のつながり強化、多面的機能の発揮と農村を広域的に支える新たな動きや活力の創出を基本方針に、農業者をはじめとする県民や関係機関と協働で具体的施策に取り組みます。

展開方向Ⅲ 農産物の需要拡大	1　戦略的な販売促進・情報発信の実践	①効果的なプロモーションの展開 ②農畜産物の販売力強化 ③農畜産物の輸出促進
	2　流通の合理化・効率化	①集出荷施設等の再編整備 ②産地から消費地までの物流改善
	3　地産地消の推進	①食や農に対する理解促進 ②県産農産物の利用促進
	4　６次産業化の推進	①６次産業化に向けた取組みへの支援 ②他産業と連携した取組みの支援

展開方向Ⅳ 生産性を高める基盤整備	1　農地集積・集約化と農地の確保	①「人・農地プラン」や農地中間管理事業等の取組み ②集落営農や農業支援グループの育成 ③荒廃農地の発生防止
	2　農地・水利施設の整備	①担い手のニーズに応じた施設整備 ②農業水利施設の長寿命化対策
	3　スマート農業の推進	①スマート農業の普及啓発 ②データ駆動型農業の推進 ③ロボット技術等の導入支援 ④スマート畜産の推進
	4　ため池の防災・減災対策	①ため池の防災・減災対策の推進 ②中小規模ため池の耐震化整備の推進
	5　防疫体制の整備	①家畜伝染病の発生予防等の強化 ②農作物病害虫・雑草対策の推進

展開方向Ⅴ 活力あふれる農村の振興	1　多面的機能の維持	①多面的機能の維持・発揮 ②中山間地域の生産活動の活性化
	2　農村の活性化	①農泊、グリーン・ツーリズムの推進 ②関係人口の創出・拡大 ③移住・定住の促進
	3　鳥獣被害防止対策の推進	①鳥獣被害対策の強化 ②持続的な捕獲体制の確立

Topic 01 農業・農村を支える多様な人材の確保

兼業農家や定年帰農者、さらには農業と他の仕事を組み合わせた“半農半X”と呼ばれる方々にも、将来にわたって農地を利用する経営体になってもらえるようサポートします。また、核となる担い手を支える人材として、外国人材・障害者・短期雇用者など雇用人材の確保にも取り組みます。

Topic 02 脱炭素社会の実現に向けた取組み

2050年カーボンニュートラル実現に向けて、脱炭素化の観点から、ため池等を活用した太陽光発電、農業用ハウスや農業機械等の省エネルギー化、麦藁など有機物のすき込みや堆肥化による土づくりへの活用、食品ロスの削減や未利用農産物の有効活用などの関連施策に取り組みます。

2050年のカーボンニュートラル実現へ

- 化石燃料から地産地消型エネルギーへの切り換え
- イノベーションによる持続的生産体制の構築
- 農地における炭素の長期・大量貯蔵
- 食料・農産物の加工・流通におけるロスの削減

温室効果ガスの排出抑制
ため池等を活用した太陽光発電

エネルギー利用の効率化
農業用ハウスや農業機械等の省エネルギー化

土壌への炭素貯留
有機物のすき込みや堆肥化による土づくりへの活用

ごみの減量化
食品ロスの削減や未利用農産物の有効活用

Topic 03 県産農産物の需要拡大

新型コロナの影響を受けて、飲食店など外食需要の縮小から、県産農産物の消費減少が長期化する一方、家庭需要の拡大や国産志向の高まりから、新たな需要の創出が期待されています。こうした消費者の変化をデジタル技術の活用によって的確に捉え、取引づくりや情報発信につなげます。

新型コロナの影響

県産農産物の消費減少
- 飲食店など外食需要の縮小
- 観光・インバウンド需要の消失

消費者の生活や意識の変化
- 家庭需要の拡大（巣ごもり消費）
- 国産志向の高まり

新たな需要の創出・消費拡大

イベントやトップセールスを駆使した県産農産物の販売促進

野菜・果樹・花き・畜産物を一体的にプロモーション

農畜産物の輸出促進

輸出先国の規制・市場変化・ニーズに対応した産地の育成と需要開拓

変化に対応した取引づくり・情報発信

ネット販売・テイクアウトなど多様化する販売形態に対応した取引づくり

デジタルマーケティングを活用した効果的でタイムリーな情報発信

Topic 04 スマート農業の推進

ドローン防除やラジコン草刈機の活用などによる省力化と、生産工程や栽培環境データの「見える化」による収量増加・品質向上を目指し、地域の実情に合ったスマート農業技術の普及啓発と、採算性も考慮した農家への導入支援に取り組みます。

普及啓発
- 情報の収集・発信
- 触れる機会の創出
- スマート農業への意識改革

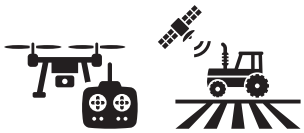
→ **導入支援**
- スマート農業の実証
- 本県農業の実態に合ったスマート農業技術・機器等の開発

→ **実装へ**

省力化

ロボット技術等の活用

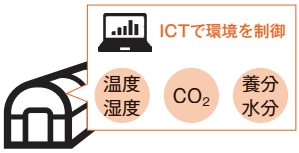
ドローン防除、ラジコン草刈機等の活用により作業の大幅な省力化を実現



収量増加・品質向上

データ駆動型農業

生産工程や栽培環境データを「見える化」



Topic 05 新しい人の流れによる農村の活性化

新型コロナを契機とした田園回帰志向の高まりや、リモートワーク・ワーケーションといった新たなトレンドを追い風に、関係人口と呼ばれる“農村ファン”づくりに取り組み、移住・定住につなげることで、農村の活性化を図ります。

農泊、グリーン・ツーリズムの推進

第１ステージ　交流人口
- 地域資源を活用した交流促進活動や農業体験の企画・造成
- 都市住民等への情報発信

→ **農村ファンの創出・拡大**

第２ステージ　関係人口
- 棚田を核とした地域振興
- 農産物オーナー制度の推進
- リモートワーク・ワーケーションの推進

→ **多様な人材の移住・定住**

第３ステージ　移住・定住
- 半農半Xの受入れに向けた支援
- 就農体験、交流活動の開催
- 暮らしに関わる情報発信

新たな人の流れ

SDGs（Sustainable Development Goals）は、2015年９月、国連サミットにおいて採択された、2030年までに達成すべき国際社会全体の開発目標です。SDGsの理念や目標は、県が「香川県農業・農村基本計画」に基づき取り組んでいる各施策と方向性を同じくするものであり、これらの取組みを推進することにより、SDGsの達成につなげていきます。

展開方向Ⅰ　担い手の確保・育成

- 2 飢餓をゼロに：経営改善に意欲的な農業者への新技術等の普及
- 4 質の高い教育をみんなに：農業大学校における研修
- 5 ジェンダー平等を実現しよう：女性農業者の農業経営への参画促進
- 8 働きがいも経済成長も：就農・就業相談やマッチング活動の充実、経営力の向上
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう：農業士や関係団体との連携

展開方向Ⅱ　農産物の安定供給

- 2 飢餓をゼロに：収量や品質の向上
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに：脱炭素化に向けた取組み推進
- 8 働きがいも経済成長も：生産拡大、品質向上、生産体制の整備
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう：新品種の開発や栽培技術の確立
- 12 つくる責任つかう責任：IPM技術の確立や循環型農業の推進
- 13 気候変動に具体的な対策を：気候変動に対応した高品質・安定生産技術の開発・実証
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう：生産者団体や卸売市場などとの連携強化

展開方向Ⅲ　農産物の需要拡大

- 2 飢餓をゼロに：６次産業化の推進
- 4 質の高い教育をみんなに：地産地消の推進
- 8 働きがいも経済成長も：県産農産物のブランド力強化
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう：６次産業化の推進
- 12 つくる責任つかう責任：地産地消の推進
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう：生産者団体との連携

展開方向Ⅳ　生産性を高める基盤整備

- 2 飢餓をゼロに：農地の集積・集約化による経営効率化、ほ場整備や農業用水のパイプライン化
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに：スマート農業の推進
- 8 働きがいも経済成長も：農地の集積・集約化による経営効率化
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう：スマート農業、ほ場整備、パイプライン化の推進
- 11 住み続けられるまちづくりを：ハザードマップの作成、中小規模ため池の保全整備や耐震補強工事
- 13 気候変動に具体的な対策を：中小規模ため池の保全整備や耐震補強工事
- 15 陸の豊かさも守ろう：生産基盤の整備推進
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう：農業者・地域住民の支援、国の検疫体制との連携

展開方向Ⅴ　活力あふれる農村の振興

- 2 飢餓をゼロに：農林水産物を生かした取組みの支援
- 4 質の高い教育をみんなに：地域のリーダーとなる人材育成
- 11 住み続けられるまちづくりを：都市住民との交流促進、鳥獣被害対策
- 13 気候変動に具体的な対策を：多面的機能の維持・発揮
- 15 陸の豊かさも守ろう：農村地域における多面的機能の維持・発揮
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう：市町など関係機関との連携

香川県農政水産部農政課

760-8570 香川県高松市番町四丁目1番10号

Tel:087-832-3395　Fax:087-806-0202

E-mail:nouki@pref.kagawa.lg.jp

香川県公式サイト

県政に関する最新情報や防災・福祉など暮らしに役立つ情報を発信

https://www.pref.kagawa.lg.jp

讃岐の食

香川県産農畜水産物応援ポータルサイト
生産者自慢の商品を紹介

https://sanukinoshoku.jp